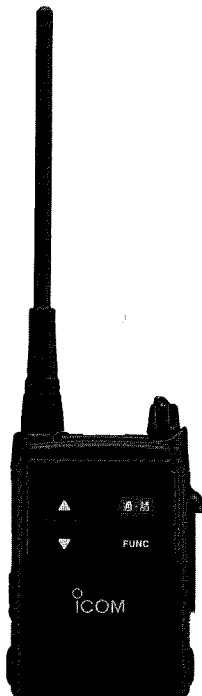


取扱説明書

同時通話型特定小電力トランシーバー IC-4855

この取扱説明書は、別売品のことも記載
していますので、お読みになったあとも
大切に保管してください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき
まして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定された
同時通話型特定小電力トランシーバーです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読
みいただき、大切に保管してください。

標準構成

本製品には、下記のを同梱しています。

- 無線機本体
- バッテリーパック(BP-238N)
- ハードケース(LC-160)
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、icom は、アイコム株
式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標お
よび登録商標です。



使用後はリサイクルへ

この製品は充電式電池使用機器です。希少な金
属を再利用し、地球環境を維持するために、不
要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイ
クル協力店へご持参ください。

はじめに

本製品の概要について

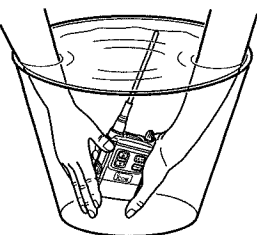
- 本製品には3種類の通話モード(シンプル/マニュアル/個別)が
あり、それぞれの通話モードの中でも、特定の人と交信する
1:1通信(ペア仕様)と、グループを呼び出す1:N通信(一斉
呼び出し仕様)の2種類の形態があります。
なお、すべてのモードで同時通話ができます。
- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての
認証(技術基準適合証明)を取得した製品ですので、無線局の免
許は不要です。
- 本機は、JIS保護等級7(防浸形)に対応する防水性能がありま
す。
- 本機は、リチウムイオンバッテリーパックを装着していますの
で、軽量で長時間の運用ができます。

海水や砂、泥などが付着したときは？

海水や砂、泥などが無線機に付
着したときは、真水で洗い流し
てください。

このとき、バッテリーパックは、
無線機本体から絶対にはずさな
いください。

洗い流したあとは、水分をふき
取り、十分に乾燥させてからご
使用ください。



はじめに

はじめに

防水性能について

本製品は、JIS保護等級7(防浸形)の防水性能がありますが、完
全防水構造ではありません。

次のような使いかたをすると、防水性能を保証できませんので、
ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックや防水型
スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥などが無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、歪み、ひび割れ等が発生した
場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- バッテリーパックを無線機本体に取り付けずに使用したり、下に
指定の別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷
があるとき
- 使用温度範囲からはずれた温度で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散、または薬品にふれるところに放置したとき

■ JIS保護等級7(防浸形)とは

バッテリーパックを正しく装着した状態で水深1mの静水(常温の
水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線
機として機能することです。

■ 別売品の防水性能について

バッテリーパック(BP-238N)は、JIS保護等級7(防浸形)相当の
防水性能になります。

※防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン(HM-149)は、JIS
保護等級7(防浸形)の防水性能になりますが、マイクロホン部
は、防水構造ではありません。

それ以外の別売品(※9章)については、防水性能を保証していま
せんので、ご注意ください。

もくじ

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、販売店にお尋ねください。

1.安全上のご注意(必ずお読みください。)

2.ご使用前の準備

- バッテリーパックの取り付け11
- バッテリーパックの取りはずし11
- マイクホンとイヤホンの取り付け12
 - ◇ HM-149(防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン)とEH-15(イヤホン)を組み合わせた場合12

3.各部の名称と機能

- 前面部13
- 表示部15

4.基本操作のしかた

- 1 電源を入れる16
- 2 音量を調整する16
- 通話モードについて17

5.交信のしかた

- シンプル通話モード19
- マニュアル通話モード23
- 個別通話モード28
- グループ/全体呼び出し機能33
- 交信時のアドバイス37

はつらくもくじ

iv

もくじ

6.そのほかの機能について

- 自局番号表示機能38
- ロック機能38
- 優先表示機能38
- 自動再接続機能39
- パワーオン自動再接続機能39

7.セットモードについて

- ◇ マイク感度の設定40
- ◇ 反転表示の設定41
- ◇ 接続ケーブルの設定41
- ◇ 送信出力の設定42
- ◇ スケルチレベルの設定42
- ◇ 通話モードの設定43
- ◇ 自局番号の設定43
- ◇ グループ番号の設定43
- ◇ 疑似3者通話の設定43

8.充電について

- 安全な充電のために44
- バッテリーパックの残量表示について44
- バッテリーパックの残量警告アラームについて44
- 充電のしかた45
- 連結充電について46
- バッテリーパックの定格について47
- 急速充電器の定格について(別売品)47
- 正しい充電のために48

v

もくじ

9.別売品について

- 別売品リスト49
- MB-104(ベルトクリップ)の取り付け50
- BP-239(アルカリ電池ケース)51
- MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け52
- OPC-636(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)/OPC-661(マイクスイッチ未内蔵型接続ケーブル)53
- HS-88(ヘッドセット)54
- HM-104(単一指向性)/HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)54
- HM-123(本体取り付け型マイクロホン)55
- HM-149(防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン)55
- HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤープッド型スピーカー)の組み立て56
- EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)57
- EH-13(耳掛け型イヤホン)57
- EH-14(オープンエア型イヤホン)58
- EH-15(イヤホン)58

10.保守について

- Ⓐ 日常の保守と点検について59
- Ⓑ 防水性能維持の定期点検と保守について59
- Ⓒ 故障かな?と思ったら60
- Ⓓ 故障のときは61
- Ⓔ 急速充電器のヒューズについて63

はつらくもくじ

vi

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、ご使用前に、必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

▶次の「△危険」「△警告」「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。

▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■無線機本体について

△危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。

1

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
- 運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- 万が一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認し、販売店または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

1

2

無線機本体について(つづき)

注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
- 無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- 指定以外の別売品を接続しないでください。
故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- 温度が、 -10°C ~ $+50^{\circ}\text{C}$ を超える環境では使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

3

■ バッテリーパックについて

危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。
- 指定以外の充電器で充電しないでください。
- 本機以外に使用しないでください。
- 漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 火の中に投入したり、加熱しないでください。
- ハンダ付けしないでください。
- バッテリーパックの端子間をショートしないでください。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- 火のそば、ストーブのそばや炎天下など高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

1

4

■ バッテリーパックについて(つづき)

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
- バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落させないでください。
- 水や海水につけたり、ぬらさないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 指定時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめてください。

5

◆ バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

△ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
- 0℃～+40℃以外では充電しないでください。
- -20℃～+60℃以外では運用しないでください。
- 高温の場所で使用、放置しないでください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 無線機を長期間(約1年)使用しないときは、バッテリーパックを取りはずし、-20℃～+25℃の湿気の少ない場所に保管してください。
- 3ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃～+35℃の湿気の少ない場所に保管してください。
- 1ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃～+45℃の湿気の少ない場所に保管してください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
- ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1

■ 充電器について(別売品)

△ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
- BC-165以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定のバッテリーパック以外には使用しないでください。BP-238N専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

△ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
 - 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
 - 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
- すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

1

△ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 0℃～+40℃以外では充電しないでください。
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
- 充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

■ 充電器について(つづき)

△ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- 充電器を保管するときは、-10℃～+70℃で湿気の少ない場所に保管してください。
- サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
- ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

取り扱い上のご注意

- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
- 結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- やや強めの雨の中で運用できますが、雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしないでください。
- 水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- 充電口や充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。
- 磁気カードの内容が消去されることがあります。

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2カ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本機の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

電波法上のご注意

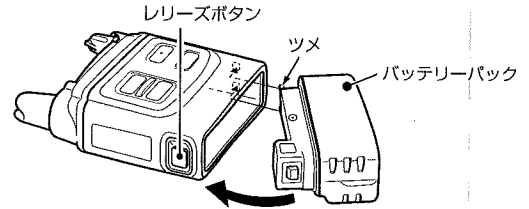
- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

1

2 ご使用前の準備

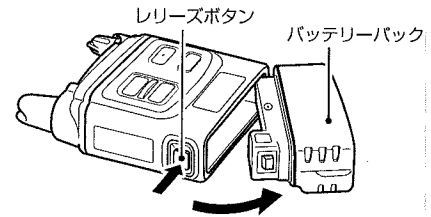
■バッテリーパックの取り付け

- ①バッテリーパックのツメを本体側に図のようにはめ込みます。
- ②バッテリーパックを無線機に取り付けます。
- ③「カチッ」と音がするまでバッテリーパックを無線機に差し込むと、無線機側面にあるリリースボタンでロックされます。



■バッテリーパックの取りはずし

- ①リリースボタンを図の方向に押しつけてロックをはずします。
- ②バッテリーパックを図の方向に取りはずします。



△注意

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れた状態で、充電・着脱をしないでください。
本製品やバッテリーパックの各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

10

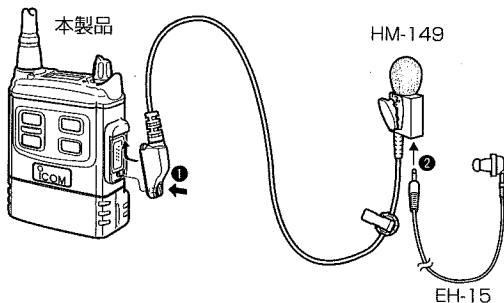
11

ご使用前の準備 2

■マイクロホンとイヤホンの取り付け

本製品を運用するには、付属品のほかに、別売品のマイクロホンとイヤホンが必要です。
マイクロホンとイヤホンは、用途に応じて組み合わせが選択できます。
ここでは代表的な組み合わせ例について説明します。

◇ HM-149(防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン)と EH-15(イヤホン)を組み合わせた場合



2

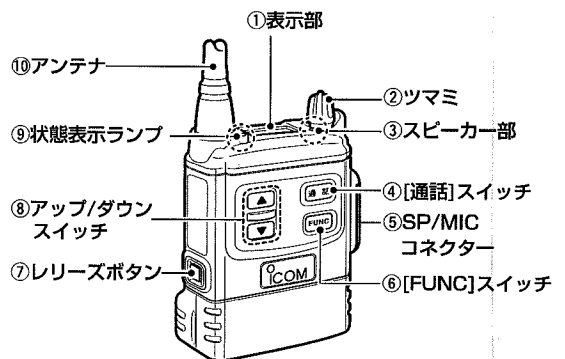
△警告：下記の事項を守らないと、耳に障害を与える原因になります。

- 大きな音量でイヤホン(別売品)などを使用しないでください。
- 異音が出ることがありますので、イヤホンなどを耳に当てた状態で、取り付けや取りはずしをしないでください。
- 本製品の「ツマミ」で音量を最小にしてからイヤホンを装着し、聞こえやすい音量にセットしてご使用ください。

12

3 各部の名称と機能

■前面部



①表示部(※P15)

運用状態を表示します。

②ツマミ(※P16)

電源の「ON/OFF」の切り替えと、音量の調整をします。

③スピーカー部

操作時などにピープ音が鳴ります。
※通話するときは、別売品のイヤホンやマイクロホンをご用意ください。

④[通話]スイッチ

短く押すと、相手局を呼び出します。
通話中に短く押すと、通話を終了します。

⑤SP/MICコネクタ

別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続します。
※保護カバーは付属していません。

13

⑥ [FUNC]スイッチ

お買い上げいただいたときの設定により、短く押すごとに、[通常表示]→[グループ番号表示]→[全体呼び出し表示(ALL)]の順番に表示を切り替えます。
※長く押すごとに、ロック機能の「ON/OFF」を切り替えます。

⑧ アップ/ダウン(▲/[▼])スイッチ

短く押すごとに、通話チャンネルや個別番号、グループ番号を切り替えます。

※セットモードでは、短く押すごとに、設定内容を切り替えます。(※P40)

⑨ 状態表示ランプ

通話の状態を示します。

- 橙色で点滅：呼び出し
- 赤色で点灯：送信/送受信
- 緑色で点灯：受信

⑩ アンテナ

電波を発射、または受信する部分です。

⑦ リリースボタン

バッテリーパックを取り付けたり取りはずしたりするボタンです。

電源を入れたときや各部のスイッチを操作したとき、表示部の照明が約5秒間点灯します。

△ 注意

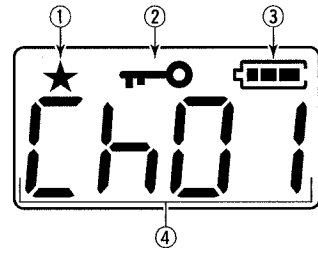
③の[スピーカ部]は、無線機内外の気圧を調整するための空気穴としても機能しています。

この空気穴には、絶対に針などの細い棒を差し込まないでください。

内部に貼られた防水シートを破損して、防曇性が失われる原因となることがあります。

3

■ 表示部



① ★ 送信出力の設定(※P42)が10mWの時、点灯します。

② ー〇 ロック機能(※P38)が動作していると点灯します。

③ 電池の残量を4段階で表示します。(※P44)

④ 運用状態表示 運用状態を表示します。
※お買い上げいただいたときの設定により、[FUNC]スイッチを短く押すごとに、[通常表示]→[グループ番号表示“GR**”]→[全体呼び出し表示“ALL”]の順番に表示が切り替わります。(※P38)

14

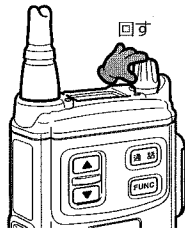
15

基本操作のしかた 4

1 電源を入れる

[カチツ]と音がするまで[ツマミ]を時計まわりに回すと、電源が入ります。

※[カチツ]と音がするまで[ツマミ]を反時計まわりに回すと、電源が切れます。



電源が入ると、ピープ音が「ピー」と鳴り、下図のような表示を表示部に約1秒間表示します。

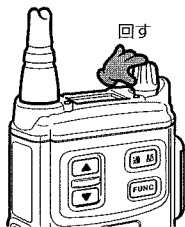
※表示内容は、設定された通話モードによって異なります。



2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、[ツマミ]を回して聞きやすい音量に調整します。

△注意：本製品の[ツマミ]で音量を最小にしてからイヤホン装着し、聞こえやすい音量にセットしてご使用ください。



3

4

16

4 基本操作のしかた

■ 通話モードについて

本製品は、3種類の通話モード(シンプル/マニュアル/個別)に分かれています。

また、それぞれの通話モードの中でも、2種類の交信形態(ペア仕様/一斉呼び出し仕様)に分類できます。

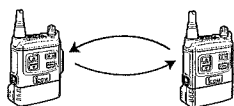
使用環境や目的に応じて、通話モードと交信形態を、セットモード(※P43)で変更できます。

通話モード	シンプル (※P19)		マニュアル (※P23)		個別 (※P28)	
	ペア	一斉呼び出し	ペア	一斉呼び出し	ペア	一斉呼び出し
交信形態(仕様)	ペア	一斉呼び出し	ペア	一斉呼び出し	ペア	一斉呼び出し
通話形態	1:1	1:N	1:1	1:N	1:1	1:N
チャンネル設定	自動	自動	▲/▼短く押す	▲/▼短く押す	自動	自動
着信時の通話	自動応答	通話短く押す	自動応答	通話短く押す	自動応答	通話短く押す

17

◇ ペア仕様

電話のように、通信相手と1:1で「話す/聞く」が同時にできます。

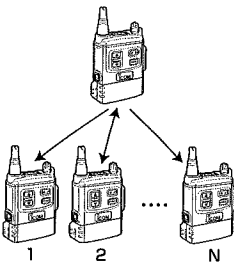


◇ 一斉呼び出し仕様

複数の無線機を一斉に呼び出し、呼び出しを受けた局と「話す/聞く」が同時にできます。(1:N通話)

疑似3者通話機能(※P43)が「OFF」のとき、通話エリア内のほかの局は、呼び出しをした局の通話内容だけを聞くことができます。

疑似3者通話機能が「ON」のとき、通話エリア内のほかの局は、呼び出しをした局と呼び出しを受けた局の通話内容を聞くことができます。



4

5 交信のしかた

■ シンプル通話モード

<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の操作方法>

1 グループ番号を選択する

[FUNC]スイッチを短く数回押し、グループ番号表示にします。

[▲]/[▼]スイッチを短く押し、相手局が所属するグループ番号を選択します。

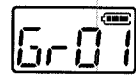
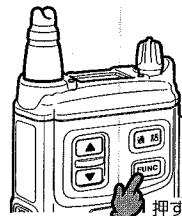
※グループ番号は、「00」～「99」のいずれかが各無線機に割り当てられているので、その中から該当するグループ番号を選択します。

※設定により、グループ番号が表示されないことがあります。

そのときは、自局と同じグループに所属する無線機にだけ、呼び出しをします。

※グループ番号「0」のIC-4055またはIC-4066と通話する場合、グループ番号は、「16」を選択してください。

※元の表示に戻すには、[FUNC]スイッチを短く数回押ししてください。



グループ番号「01」

交信のしかた 5

2 呼び出しをする

[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが橙色に点滅します。

相手局と回線が繋がったら、ペア仕様機の場合は、「ピーピロ」、一斉呼び出し仕様機の場合は、「ピロピロ」と鳴り、状態表示ランプが赤色に点灯します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と呼びかけます。

※相手局が応答したら、電話のように、「話す/聞く」が同時にできます。(同時通話)

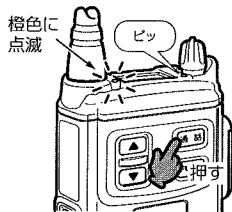
※送信出力を10mWで運用時は、1回の通話時間が3分間に制限されます。

通話制限時間が10秒前になると、「ピッ」と鳴って、その10秒後に強制的に通話を終了します。

また、ペア仕様機の場合は、スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。

そのとき、自動再接続機能(※P39)が設定されていると、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。

※相手局が通話圏外にいるか、電源が入っていないときは、「ブツ」と鳴って状態表示ランプが消灯します。



5

5 交信のしかた

■ シンプル通話モード

<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の操作方法>(つづき)

3 呼び出しを受ける

<ペア仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピーピロ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と応答します。



<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピロピロ」と鳴って状態表示ランプが緑色に点灯します。

また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と応答します。

※スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。



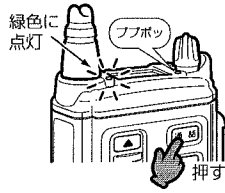
4 通話を終了(終話)する

<ベア仕様機の場合>

通信中のどちらか一方が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に“プブポッ”と鳴って終話します。

※[通話]スイッチを押してから2秒以内にもう一度[通話]スイッチを押すと、通話を継続できます。

※自動再接続機能(※P39)が設定されていると、呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押して通話を終了しても、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。その場合は、呼び出しをした局が[通話]スイッチを押して通話を終了します。



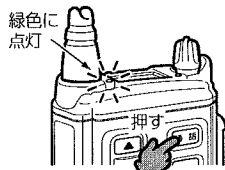
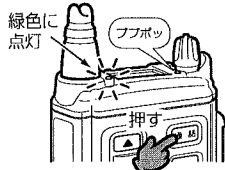
5

<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しをした局が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に“プブポッ”と鳴って終話します。

※呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押すと、その無線機だけ通話を終了します。(状態表示ランプが緑色に点灯)再度[通話]スイッチを押すと、通話を再開します。(状態表示ランプが赤色に点灯)

呼び出しをした局は、続けてほかの局と通話できます。



22

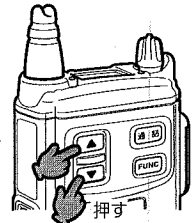
■マニュアル通話モード

<ベア仕様機/一斉呼び出し仕様機の操作方法>

1 通話チャンネルを選択する

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、通話チャンネル(01~27)を選択します。

※相手局と同じ通話チャンネルを設定していないと、通話できません。



チャンネル「01」

■チャンネル対応表

IC-4055、またはIC-4066と通話する場合、次の表を参考にチャンネルを設定してください。

本製品	IC-4055/ IC-4066	本製品	IC-4055/ IC-4066	本製品	IC-4055/ IC-4066
01	0	11	10	21	×
02	1	12	11	22	×
03	2	13	12	23	×
04	3	14	13	24	×
05	4	15	14	25	×
06	5	16	15	26	×
07	6	17	×	27	×
08	7	18	×		
09	8	19	×		
10	9	20	×		

23

2 グループ番号を選択する

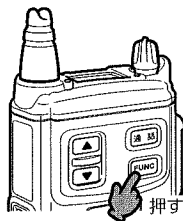
[FUNC]スイッチを短く数回押して、グループ番号表示にします。[▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手局が所属するグループ番号を選択します。

※グループ番号は、「00」~「99」のいずれかが各無線機に割り当てられているので、その中から該当するグループ番号を選択します。

※設定により、グループ番号が表示されないことがあります。そのときは、自局と同じグループに所属する無線機にだけ、呼び出しをします。

※グループ番号「0」のIC-4055、またはIC-4066と通話する場合、グループ番号は、「16」を選択してください。

※元の表示に戻すには、[FUNC]スイッチを短く数回押してください。



グループ番号「01」

5

24

■マニュアル通話モード

<ベア仕様機/一斉呼び出し仕様機の操作方法>(つづき)

3 呼び出しをする

[通話]スイッチを押すと、“ピッ”と鳴って状態表示ランプが橙色に点滅します。

相手局と回線がつながったら、ベア仕様機の場合は、“ピーピロ”、一斉呼び出し仕様機の場合は、“ピロピロ”と鳴り、状態表示ランプが赤色に点灯します。マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と呼びかけます。

※相手局が応答したら、電話のように、「話す/聞く」が同時にできます。(同時通話)

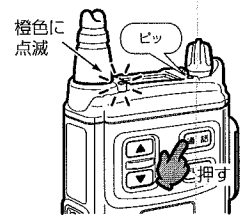
※送信出力を10mWで運用時、およびチャンネル「19」~「27」を使用時は、1回の通話時間が3分間に制限されます。

通話制限時間が10秒前になると、“ピッ”と鳴って、その10秒後に強制的に通話を終了します。

また、ベア仕様機の場合は、スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。

そのとき、自動再接続機能(※P39)が設定されていると、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。

※相手局が通話圏外にいるか、電源が入っていないときは、“プッ”と鳴って状態表示ランプが消灯します。



25

4 呼び出しを受ける

<ペア仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピーピロ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

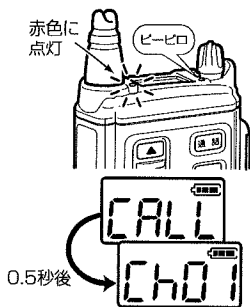
また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

○○さんどうぞ。」

と応答します。



5

<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピロピロ」と鳴って状態表示ランプが緑色に点灯します。

また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

マイクに向かって

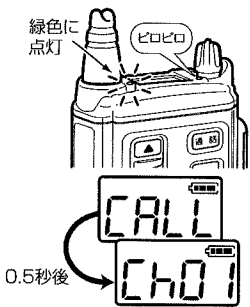
「こちらは××局です。

○○さんどうぞ。」

と応答します。

※スケルチ(※P42)が2秒間閉じ

た状態になると、自動的に通話を終了します。



■マニュアル通話モード

<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の方法>(つづき)

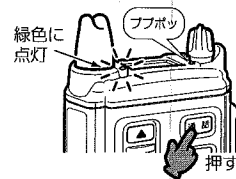
5 通話を終了(終話)する

<ペア仕様機の場合>

通信中のどちらか一方が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に「フブポッ」と鳴って終話します。

※[通話]スイッチを押してから2秒以内にもう一度[通話]スイッチを押すと、通話を継続できます。

※自動再接続機能(※P39)が設定されていると、呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押して通話を終了しても、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。その場合は、呼び出しをした局が[通話]スイッチを押して通話を終了します。



<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しをした局が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に「フブポッ」と鳴って終話します。

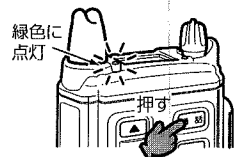
※呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押すと、その無線機だけ通話を終了します。(状態表示ランプが緑色に点灯)

再度[通話]スイッチを押すと、通話を再開します。(状態表示ランプが赤色に点灯)

呼び出しをした局は、続けてほかの局と通話できます。



呼び出しをした局から終話



呼び出しを受けた局から終話

26

27

■個別通話モード

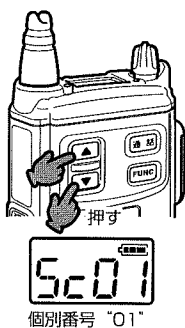
<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の方法>

1 個別番号を選択する

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手局の個別番号を選択します。

※個別番号は、「01」～「99」のいずれかが各無線機に割り当てられているので、その中から該当する相手局の個別番号を選択します。

※お買い上げいただいたときの設定により、「0-」～「9-」、「-0」～「-9」(ワイルドカード)が表示されることがあります。



個別番号「01」

5

■ワイルドカードについて

ワイルドカードとは、個別番号の1の位または10の位に「-」が設定されているもので、「-」が設定されている桁は、「0」～「9」のいずれの番号にでもなりうるすることができます。

例えば、個別番号をワイルドカードの「0-」と設定し、呼び出しをする(ワイルドカード発信)と、個別番号「01」～「09」に設定されたすべての無線機を呼び出しできます。

そのときの動作は、ペア仕様機であっても、一斉呼び出し仕様機と同じになります。

■個別通話モード

<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の方法>(つづき)

2 グループ番号を選択する

[FUNC]スイッチを短く数回押して、グループ番号表示にします。

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手局が所属するグループ番号を選択します。

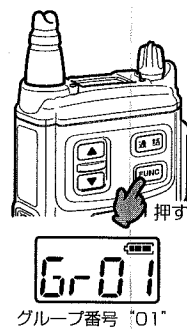
※グループ番号は、「00」～「99」のいずれかが各無線機に割り当てられているので、その中から該当するグループ番号を選択します。

※設定により、グループ番号が表示されないことがあります。

そのときは、自局と同じグループに所属する無線機にだけ、呼び出しをします。

※グループ番号「0」のIC-4055、またはIC-4066と通話する場合、グループ番号は、「16」を選択してください。

※元の表示に戻すには、[FUNC]スイッチを短く数回押してください。



グループ番号「01」

28

29

3 呼び出しをする

[FUNC]スイッチを短く数回押し
て元の表示に戻します。

- [通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが橙色に点滅します。

相手局と回線が繋がったら、ペア仕様機の場合は、「ピーピロ」、一斉呼び出し仕様機の場合は、「ピロピロ」と鳴り、状態表示ランプが赤色に点灯します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と呼びかけます。

※相手局が応答したら、電話のように、「話す/聞く」が同時にできます。(同時通話)

※送信出力を10mWで運用時は、1回の通話時間が3分間に制限されます。

通話制限時間が10秒前になると、「ピッ」と鳴って、その10秒後に強制的に通話を終了します。

また、ペア仕様機の場合は、スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。

そのとき、自動再接続機能(※P39)が設定されていると、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした方が自動で再呼び出しをします。

※相手局が通話圏外にいるか、電源が入っていないときは、「ブッ」と鳴って状態表示ランプが消灯します。



5

30

■ 個別通話モード

<ペア仕様機/一斉呼び出し仕様機の操作方法>(つづき)

4 呼び出しを受ける

<ペア仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピーピロ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

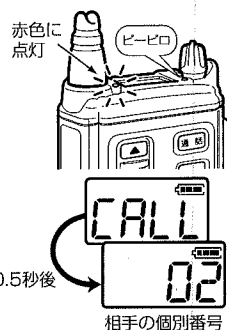
また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と応答します。



<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しを受けると、「ピロピロ」と鳴って状態表示ランプが緑色に点灯します。

また、「CALL」を表示部に約0.5秒間表示します。

[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。

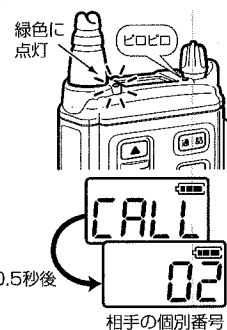
マイクに向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と応答します。

※スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。



30

31

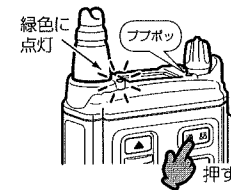
5 通話を終了(終話)する

<ペア仕様機の場合>

通信中のどちらか一方が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に「ブブポッ」と鳴って終話します。

※[通話]スイッチを押してから2秒以内にもう一度[通話]スイッチを押すと、通話を継続できます。

※自動再接続機能(※P39)が設定されていると、呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押して通話を終了しても、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。その場合は、呼び出しをした局が[通話]スイッチを押して通話を終了します。



5

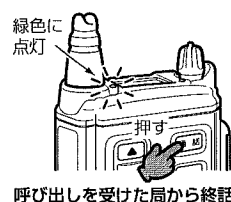
<一斉呼び出し仕様機の場合>

呼び出しをした局が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に「ブブポッ」と鳴って終話します。

※呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押すと、その無線機だけ通話を終了します。(状態表示ランプが緑色に点灯)

再度[通話]スイッチを押すと、通話を再開します。(状態表示ランプが赤色に点灯)

呼び出しをした局は、続けてほかの局と通話できます。



32

■ グループ/全体呼び出し機能

◎グループ呼び出し機能

グループ番号を設定したとき、個別番号の設定に関係なく、そのグループの無線機だけを呼び出せる機能です。

※個別通話モードのときだけ使用できます。ほかのモードで呼び出しできますが、グループ呼び出しとして機能しません。

◎全体呼び出し機能

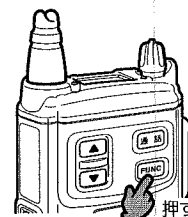
個別番号やグループ番号の設定に関係なく、すべての無線機を一斉に呼び出せる機能です。

1 グループ番号/全体呼び出し機能を選択する

[FUNC]スイッチを短く数回押し
て、グループ番号表示が全体呼
び出し表示にします。

※設定により、グループ番号ま
たは全体呼び出し表示が表示
されないことがあります。

そのときは、グループ呼び出
し機能/全体呼び出し機能を使
用できないことを意味します。



グループ番号表示のときは、
[▲]/[▼]スイッチを短く押し
て、グループ番号を選択します。

※グループ番号は、「00」~「99」
のいずれかが各無線機に割り当
てられているので、その中から
該当するグループ番号を選択し
ます。

※グループ番号「0」のIC-4055、またはIC-4066と通話する場
合、グループ番号は、「16」を選択してください。

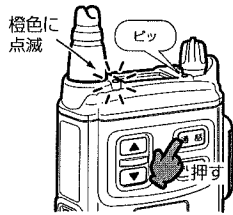
33

2 呼び出しをする

グループ番号、または全体呼び出し表示の状態、[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが橙色に点滅します。
相手局と回線がつながったら、ペア仕様機の場合は、「ピーピロ」、一斉呼び出し仕様機の場合は、「ピロピロ」と鳴り、状態表示ランプが赤色に点灯します。
マイクに向かって

「こちらは××局です。
○○さんどうぞ。」

と呼びかけます。
相手局が応答したら、電話のように、「話す/聞く」が同時にできます。(同時通話)
※送信出力を10mWで運用時、および「19」~「27」チャンネルのマニュアル通話モードで交信したとき、1回の通話時間が3分間に制限されます。
通話制限時間が10秒前になると、「ピッ」と鳴って、その10秒後に強制的に通話を終了します。
※相手局が通話圏外にいるか、電源が入っていないときは、「ブッ」と鳴って状態表示ランプが消灯します。



5

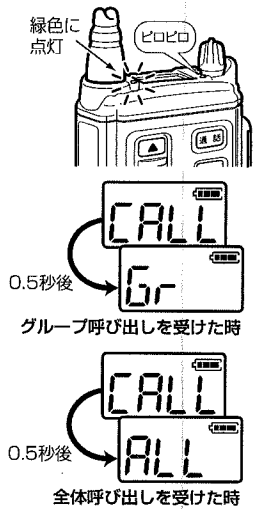
■グループ/全体呼び出し機能(つづき)

3 呼び出しを受ける

呼び出しを受けると、「ピロピロ」と鳴って状態表示ランプが緑色に点灯します。
また、「CALL」を表示部に0.5秒間表示し、そのあとグループ呼び出しのときは、「Gr」、全体呼び出しのときは、「ALL」の表示になります。
[通話]スイッチを押すと、「ピッ」と鳴って状態表示ランプが赤色に点灯します。
マイクに向かって

「こちらは××局です。
○○さんどうぞ。」

と応答します。
※スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になると、自動的に通話を終了します。

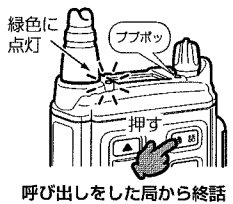


34

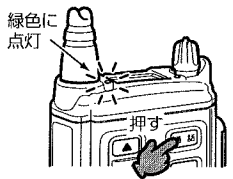
35

4 通話を終了(終話)する

呼び出しをした局が[通話]スイッチを押すと、状態表示ランプが緑色に点灯して、約2秒後に「ブブポッ」と鳴って終話します。
※呼び出しを受けた局が[通話]スイッチを押すと、その無線機だけ通話を終了します。(状態表示ランプが緑色に点灯)
再度[通話]スイッチを押すと、通話を再開します。(状態表示ランプが赤色に点灯)
呼び出しをした局は、続けてほかの局と通話できます。



呼び出しをした局から終話



呼び出しを受けた局から終話

5

■交信時のアドバイス

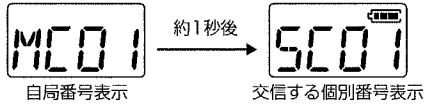
- 1. マイクロホンの使いかた**
マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、ふつうに話す大きさの声で通話します。
あまり大きな声で通話すると、かえって明瞭度が悪くなります。
- 2. 通話モードと送信出力について**
 - 相手局と同じ通話モードを設定していないと、通話できません。
 - 相手局と同じ送信出力を設定していないと、通話できません。
- 3. マニュアル通話モードでの呼び出しについて**
マニュアル通話モードで呼び出しをするときは、[通話チャンネル]を相手局と同じにしてください。
相手局と通話チャンネルが異なると、通話できません。
- 4. 個別通話モードでの呼び出しについて**
個別通話モードで呼び出しをするときは、相手局の[個別番号]を指定してください。
個別番号が指定されていないと、通話できません。
- 5. グループ番号について**
相手局が所属するグループ番号を指定してください。
グループ番号を間違えると通話できません。
- 6. 相手局から応答がないときは**
相手局が通話圏外にいるか、電源が入っていないときは、「ブッ」と鳴って状態表示ランプが消灯します。
- 7. 交信する場所について**
周囲の状況(天候、建物や山の陰など)により、受信しにくくなる場合があります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作することがありますので、はなれてご使用ください。

36

37

■ 自局番号表示機能

個別通話モードが設定されていると、電源投入直後の約1秒間、この無線機の自局番号を表示部に表示します。



■ ロック機能

不用意に[FUNC]スイッチや[▲]/[▼]スイッチにふれても、通話チャンネルや表示が変わらないようにする機能です。

[FUNC]スイッチを長く(0.5秒以上)押すと“ピッピッ”と鳴って、“”を表示部に表示します。再度、同じ動作で解除します。

それ以外のスイッチは、ロックされていても操作できます。

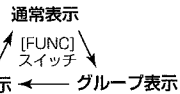
■ 優先表示機能

本製品の表示は3種類あります。

無線機のスイッチを操作したあとに表示する内容(優先表示)は、お買い上げいただいたときの設定により異なります。

電源投入時は、前回電源を切るときに表示されていた内容を、表示します。

※表示は、[FUNC]スイッチを押すごとに切り替わります。表示が切り替わる順番は、優先表示の設定に関係なく、右全体表示 ← グループ表示



※無線機のスイッチを操作したあと、自動的に優先表示に戻るまでの時間は、設定により異なります。

自動的に優先表示に戻らない場合もあります。

そのときは、[FUNC]スイッチを押して切り替えてください。

5
6

■ 自動再接続機能

次のときは、1回の通話時間が3分間に制限されます。

- 本製品の送信出力を10mWに設定したとき
- 「19」～「27」チャンネルのマニュアル通話モードで発信したとき

通話制限時間が10秒前になると、“ピッ”と鳴って、その10秒後に強制的に通話を終了します。

また、スケルチ(※P42)が2秒間閉じた状態になっても、自動的に通話を終了します。

そのとき、自動再接続機能が設定されていると、通話が切れてから約2秒後に、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。

※自動再接続機能が設定されているときの終話動作は、呼び出しをした局に優先権があります。

呼び出しを受けた局から通話を終了しても、約2秒後、呼び出しをした局が自動で再呼び出しをします。

回線を切るには、呼び出しをした局が[通話]スイッチを押して通話を終了してください。

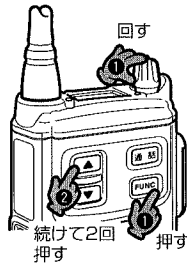
■ パワーオン自動再接続機能

お買い上げいただいたとき、パワーオン自動再接続機能が設定されていると、電源投入時、電源を切る前の最後の通話条件で、自動的に再接続します。

通話相手が変わらない場合にこの機能を使用すると、電源を入れるだけで通話相手に接続できます。

セットモードを使用すると、本製品の設定を、お好みの使いかたに応じて変更できます。

- ① 電源を切ります。
- ② [FUNC]スイッチを押しながら、[ツマミ]を回して電源を入れます。ビープ音が鳴ったら、[FUNC]スイッチから手をはなして、[▲]スイッチを短く2回押します。
 - ※ビープ音が鳴ってから、2秒以内に操作してください。
 - セットモードを表示します。



△ 注意
ビープ音が鳴ってから、なにも操作しないまま2秒以上経過すると、通常モード運用に切り替わります。通常モードでは、[▲]スイッチを押すと通話チャンネルが切り替わりますので、ご注意ください。

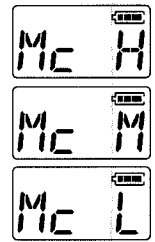
6
7

- ③ [FUNC]スイッチを短く押して、設定項目を選択します。
 - ※[FUNC]スイッチを押すごとに、「Mc-M」→「dP-N」→「Cb-St」→「Po-01」*1→「Sq-**」→「Md-P5」→「Id-01」*2→「Gr-01」→「P3-OF」と、順に切り替わります。
 - *1設定により、表示されます。
 - *2個別通話モードのとき表示されます。
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を選択します。
 - ※内容選択後は、[FUNC]スイッチを短く押して内容を確定すると、設定したい別の項目を選択できます。
- ⑤ セットモードを解除するときは、電源を切ります。

◇ マイク感度の設定

マイク感度を設定する項目です。

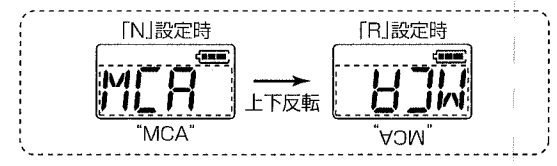
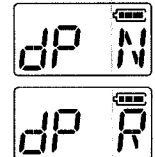
- Mc H : 高に設定します。
- Mc M : 中に設定します。(初期設定値)
- Mc L : 低に設定します。



◇ 反転表示の設定

表示部の表示内容を、上下反転させるか、させないかを設定する項目です。

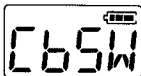
- dP N : 表示内容を上下反転させない (初期設定値)
- dP R : 表示内容を上下反転させる



◇ 接続ケーブルの設定

ヘッドセットに接続するケーブルを設定する項目です。

- CbSt : マイクスイッチ未内蔵型接続ケーブル(OPC-661)
(初期設定値)
- CbSW : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(OPC-636)
※本体の【通話】スイッチは無効になります。

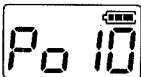
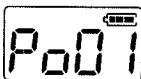


◇ 送信出力の設定

※設定により、表示されます。

相手局との距離に応じ、送信出力を切り替える項目です。

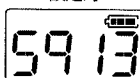
- Po01 : 1mWで出力します。
(初期設定値)
- Po10 : 10mWで出力します。
※相手局と同じ送信出力を設定することで、通話ができます。



◇ スケルチレベルの設定

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチのスリッシュレベル(動作点)を調整できます。

- Sq** : 00(浅い)~64(深い)からスケルチレベル「13」を選択します。

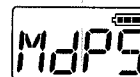


7

◇ 通話モードの設定

通話モードを設定する項目です。(通話モード/仕様)

- MdPM : マニュアル/ペア
- MdAM : マニュアル/一斉呼び出し
- MdPS : シンプル/ペア (初期設定値)
- MdAS : シンプル/一斉呼び出し
- MdPK : 個別/ペア
- MdAK : 個別/一斉呼び出し



※相手局と同じ通話モードを設定することで、通話できます。

◇ 自局番号の設定

※個別通話モードのとき表示されます。

自局番号を設定する項目です。

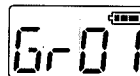
- ld** : 01~99の中から選択します。
(初期設定値 : 01)



◇ グループ番号の設定

グループ番号を設定する項目です。

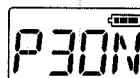
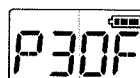
- Gr** : 00~99の中から選択します。
(初期設定値 : 01)



◇ 疑似3者通話の設定

呼び出しをした局と呼び出しを受けた局の交信を、通話エリア内の別の局でも聞けるようにする項目です。

- P30F : 通話エリア内の局は、呼び出しをした局の通話内容だけを聞けます。
(初期設定値)
- P30N : 通話エリア内の局は、呼び出しをした局と呼び出しを受けた局の交信を聞けます。



■ 安全な充電のために

△ 危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- 指定(BP-238N)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(P1~10)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

△ 注意

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

■ バッテリーパックの残量表示について

表示部の 表示は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。

※BP-239(アルカリ電池ケース)の容量低下時の表示については、(P52)をお読みください。

表示	バッテリーパックの状態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
	ほとんど容量がなく、表示点滅と警告アラームで知らせます。

■ バッテリーパックの残量警告アラームについて

バッテリーパックの残量表示が 表示になると、警告アラームが「ピーピーピー」と、30秒おきに繰り返し鳴ります。
警告アラームが鳴り出したら、すぐに充電をしてください。
※警告アラームが鳴った状態でご使用を続けられますと、警告アラームが「ピーピーピー...」と5秒間鳴り続けたあと、無線機の電源を自動的に切ります。

7
8

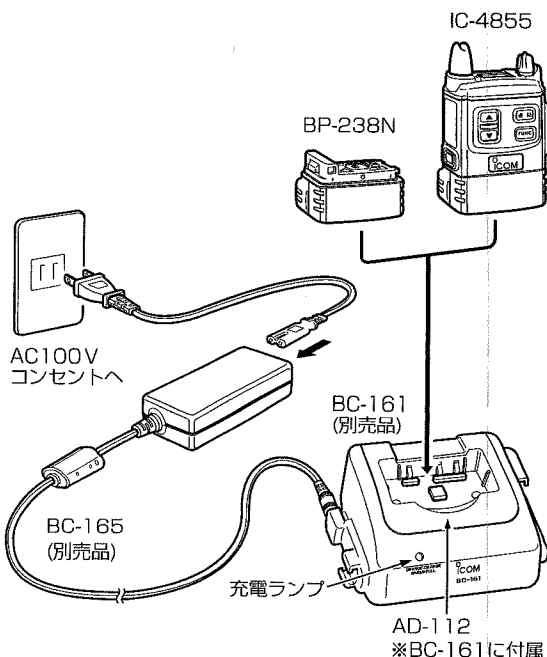
■ 充電のしかた

バッテリーパック(BP-238N)を単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、60ページをご参照ください。

※0℃~+40℃を超えない場所で充電してください。

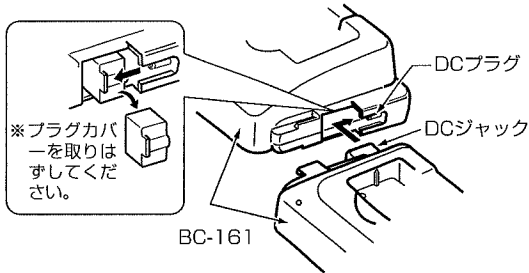


■ 連結充電について

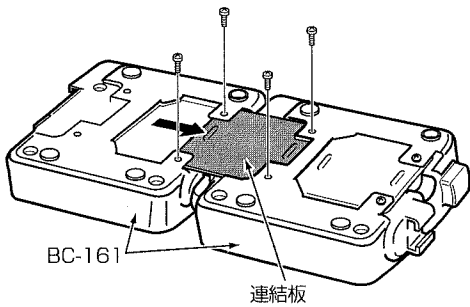
充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。
連結板を取り付けると、連結を補強できます。

※充電器を5台以上連結すると、故障の原因になります。

- ① 充電器(BC-161)側面に付いているDCジャックを、もう一方の充電器のDCプラグに「カチッ」と音がするまで差し込みます。



- ② 底面に付いている連結板を、どちらか一方の充電器だけはずします。
- ③ 2台の充電器を連結板で固定します。



8

46

■ バッテリーパックの定格について

名称 定格項目	BP-238N	
電池の種類	リチウムイオン	
電池の容量	1400mAh	
出力電圧	3.7V	
寸法 (幅×高さ×奥行)	58×32×21 <条件>突起物は含まず/<単位> mm	
運用時間	1mW時	約14時間
	10mW時	約11時間
<条件>	連続通話状態	
充電時間		約2.5時間
	<条件>	BC-161を充電器に使用時

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

※BP-238Nは、JIS保護等級7(防浸形)相当の防水性能がありますが、完全防水構造ではありません。

※BP-239(アルカリ電池ケース)については、「■BP-239(アルカリ電池ケース)」(※P51～52)をご覧ください。

■ 急速充電器の定格について(別売品)

- 名称: BC-161卓上急速充電器(AD-112付属)
- 定格入力電圧: AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- 使用温度範囲: 0℃～+40℃
- 保存温度範囲: -10℃～+70℃
- 重量: 約225g(AD-112を含む)
- 寸法: 122.5(W)×59.7(H)×95(D)mm
※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。



■ 正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本製品のバッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 極端な高温・低温のもとで充電したり、バッテリーパックと充電器の温度差が大きいときは、充電できないことがあります。
充電するときは、0℃～+40℃の範囲を超えない場所で行ってください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりませんが、普通の使いかたで約300回程度です。
指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。
- 満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパック(BP-238N)の寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックをご使用にならない場合は、満充電にしたあと、バッテリー残量が中レベルになるまで使用して(電源を入れて1時間程度そのままにしておく)、無線機から取りはずして保管してください。

8

48

9 別売品について

■ 別売品リスト

[★]印のものは、本製品に装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。

バッテリー関係

- BP-238N★ : バッテリーパック
- BP-239 : アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×2本)

急速充電器/電源関係

- BC-161 : 卓上急速充電器(AD-112付属)
- BC-165 : ACアダプター

腰にかける

- MB-104 : ベルトクリップ(標準型)

肩にかける

- MB-57L : ショルダーストラップ(LC-160用)

無線機を保護する

- LC-160 : ハードケース

スピーカー関係

- EH-11 : イヤーパッド型スピーカー(プラグ: 2.5φ)
- EH-12 : ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ: 2.5φ)

イヤホン関係

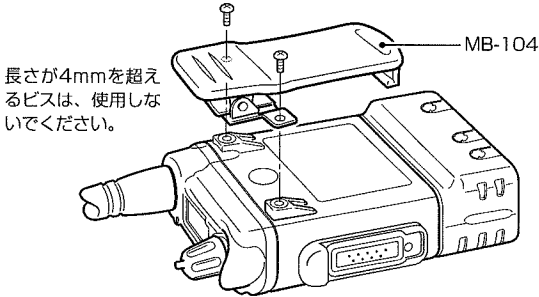
- EH-13 : 耳掛け型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-14 : オープンエア型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-15 : イヤホン(プラグ: 2.5φ)

49

マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-104 : 単一指向性タイピン型マイクロホン
- HM-104A : 無指向性タイピン型マイクロホン
- HM-123 : 本体取り付け型マイクロホン(EH15:イヤホン付属)
- HM-149* : 防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン
※マイクロホン部は、防水構造ではありません。
- HS-86 : ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- HS-88 : ヘッドセット
- HS-92 : ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- OPC-636 : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック式)
- OPC-661 : マイクスイッチ未内蔵型接続ケーブル

■MB-104(ベルトクリップ)の取り付け



△注意
腰などに取り付けるときに、指を挟まないようご注意ください。

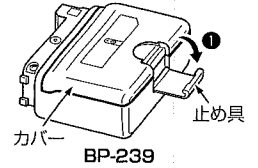
9

50

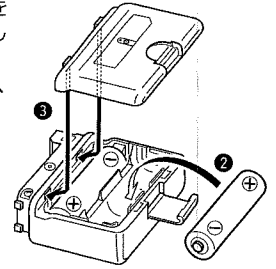
■BP-239(アルカリ電池ケース)

本機を単3形アルカリ電池で運用するときは、下図を参考に、BP-239にセットしてください。
※アルカリ電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)を間違えないようにセットしてください。
※アルカリ電池は、種類、銘柄の異なるものや、新しいものと古いものを混ぜて使用しないでください。

- ① BP-239の止め具に指をかけ、矢印の方向に開いて、カバーをはずします。



- ② 極性を間違えないように気を付け、アルカリ電池を挿入します。カバーをもとの位置に戻し、止め具でロックします。



- ③ 「■バッテリーパックの取り付け」(P11)を参考に、BP-239を無線機に取り付けます。

51

◇ アルカリ電池のご使用について

充電用ニッカド電池、ニッケル水素電池またはマンガン電池を入れて使用しないでください。
アルカリ電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。
通常、アルカリ電池の使用可能な温度の下限は、-10℃とされていますので、寒冷地で使用する場合は、電池部分を暖かくして(十分保温する)ご使用ください。

◇ 交換時期について

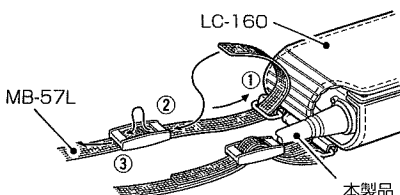
アルカリ電池の容量が低下すると、表示部全体が点滅したり、表示が全体的に薄くなります。
このようなときは、すべて同じ種類の新しい単3形アルカリ電池と交換してください。

◇ アルカリ電池ケースの運用時間

アルカリ電池(2本)をアルカリ電池ケース(BP-239)に入れて使用したときの運用時間(寿命)は、連続通話状態で使用した場合、送信出力が1mW時は約12時間で、10mW時は約9.5時間です。
※バッテリーパック(BP-238N)使用時の運用時間については、8章をご覧ください。

■MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

付属品のLC-160と組み合わせてご使用になります。図①~③の順に取り付けます。

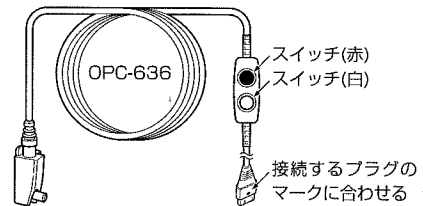


9

52

■OPC-636(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)/ OPC-661(マイクスイッチ未内蔵型接続ケーブル)

別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。



赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。
※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- (出) : 押し込んでいる(入)とき送話する
- (入) : はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれているときは使用できません。

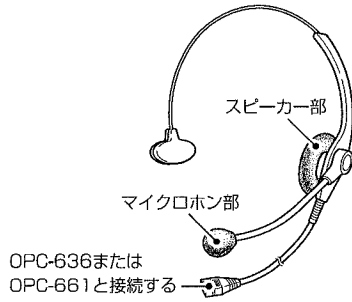
- (入) : 押し込む(入)と送話する
- (出) : 出ている(出)と送話を一時中断する

※ペア仕様機の場合、呼び出しを受けてから2秒以内にスイッチを押さないと通話が切れます。

53

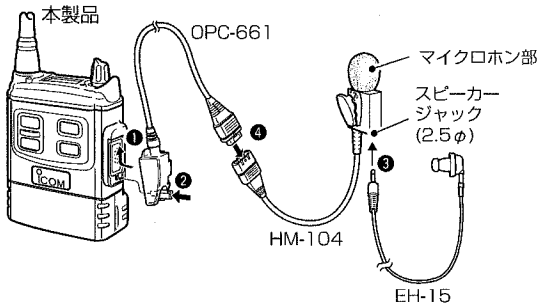
■HS-88(ヘッドセット)

別売品のOPC-636、OPC-661に接続してご使用になれます。



■HM-104(単一指向性)/
HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)

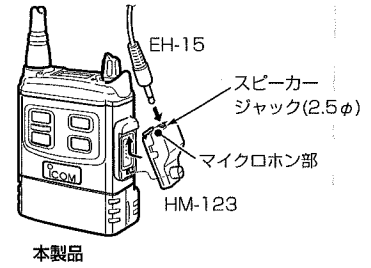
別売品のOPC-636、OPC-661に接続してご使用になれます。
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。



9

■HM-123(本体取り付け型マイクロホン)

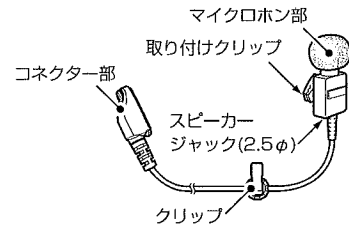
付属品のEH-15、および別売品のEH-12、EH-13、EH-14と組み合わせてご使用になれます。



■HM-149(防水コネクタ付きタイピン型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

※マイクロホン部は、防水構造ではありません。

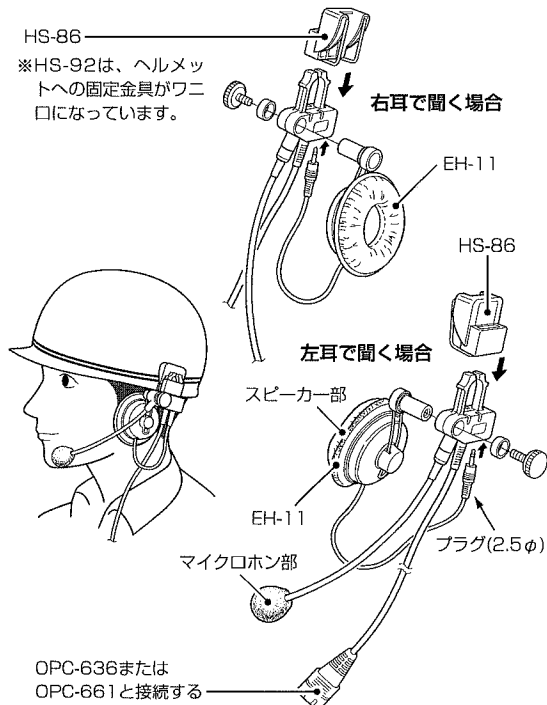


別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

※マイクロホン部は、防水構造ではありません。

■HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤerpット型スピーカー)の組み立て

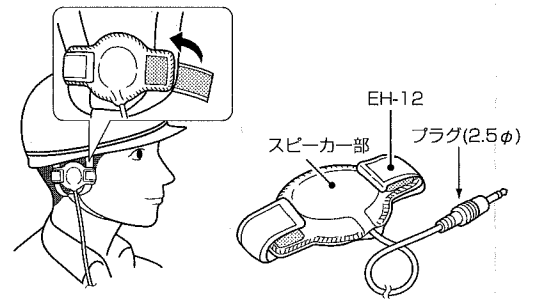
別売品のOPC-636、OPC-661および、EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。



9

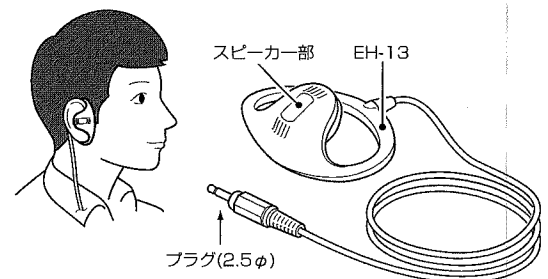
■EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149、HM-123と組み合わせてご使用になれます。



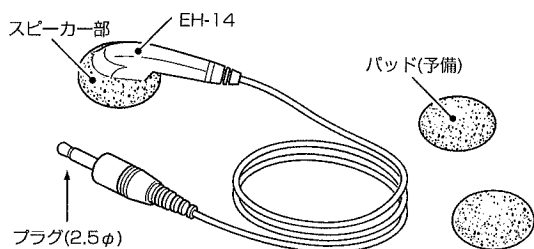
■EH-13(耳掛け型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149、HM-123と組み合わせてご使用になれます。(どちらの耳でも使用できます)



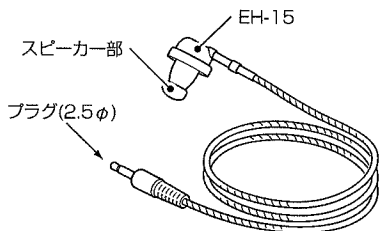
■EH-14(オープンエア型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149、HM-123と組み合わせてご使用になれます。



■EH-15(イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-149、HM-123と組み合わせてご使用になれます。



9

58

10 保守について

A 日常の保守と点検について

- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがありますので、定期的にお手入れしてください。
- ふだんのお手入れは、やわらかい布をご使用ください。汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 使用される前(業務の開始前)に、バッテリーパックの容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。また、バッテリーパック等がしっかりと接続されているか、がたつきがないか点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小にセットされていないか、確認してください。

B 防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、JIS保護等級7(防浸形)を保証(ご購入より1年間)している無線機です。

この防水性能を維持するためにも、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。

これらの定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店または弊社各営業所カスタマーサービス担当までお問い合わせください。

弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

59

保守について 10

C 故障かな?と思ったら

下記のような症状は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈症状〉 [ツマミ]を回しても電源が入らない

〈確認〉バッテリーパックの容量や、バッテリーパックと無線機本体との接触状態を確認してください。

接触不良のときは、電源装着部を清掃してください。

〈確認〉バッテリーパックの過放電保護回路が動作している可能性があります。

無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着して、電源を入れてください。

〈症状〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈確認〉無線機の電源を入れた状態で充電していないことを確認してください。

無線機の電源を切っても赤色点滅になる場合は、バッテリーパックの故障または寿命です。

お買い上げの販売店または弊社営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

〈症状〉表示部が変化しない

〈確認〉ロック機能が設定されていないかを確認してください。

〈症状〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈確認〉音量が最小にセットされていないかを確認してください。それでも音が聞こえないときは、[ツマミ]を回しながら音量を確認してください。

10

60

10 保守について

D 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「C 故障かな?と思ったら」(P60)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

【保証期間中は】

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

【保証期間後は】

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

61

回 故障のときは(つづき)

● 弊社製品のお問い合わせ先について

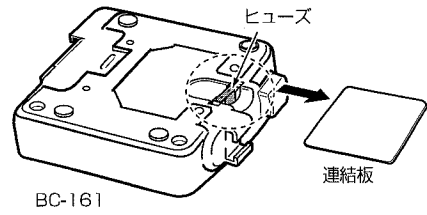
お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サポートセンター
06-6792-4949
(平日 9:00~12:00、13:00~17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

回 急速充電器のヒューズについて

別売品の急速充電器には、下図の場所にヒューズがあります。
ヒューズの容量：4A/32V



10

62

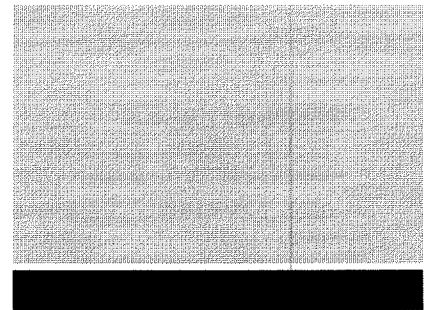
63

MEMO

Blank lined area for notes.

10

高品質がテーマです。



Blank lined area for notes.

A-6442H-1J-③
Printed in Japan
© 2005-2007 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪府平野区加美南1-1-32